

平成 30 年 10 月 11 日

お客様各位

日本農薬株式会社

農薬登録のご連絡の件

首記の件、下記について登録されましたのでご連絡致します。

記

1. 適用拡大 平成 30 年 10 月 10 日付 (2 件)

(1)フジワンドントツ粒剤

登録第 23732 号

①使用時期の変更: 稲(箱育苗)フタビコヤガ/移植 3 日前~移植当日 ⇒緑化期~移植当日

②クロチアニジンを含む農薬の総使用回数の変更:

稲(箱育苗)/4 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計 3 回以内)

⇒4 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イプロロランを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 イネスズムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロコバイ ニカメイチュウ フタビコヤガ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1 箱当り 50g	緑化期~ 移植当日	1 回	本剤の所定量を 育苗箱の上から 均一に散布する	4 回以内 (移植時までの処理 は 1 回以内、本田 での散布、空中散 布、無人航空機散 布は合計 3 回以内)	3 回以内 (移植前は 1 回 以内、本田では 2 回以内)
作物名	使用目的	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イプロロランを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	根の伸長 及び 発根促進	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1 箱当り 50g	緑化始期	1 回	本剤の所定量を 育苗箱の上から 均一に散布する	4 回以内 (移植時までの処理 は 1 回以内、本田 での散布、空中散 布、無人航空機散 布は合計 3 回以内)	3 回以内 (移植前は 1 回 以内、本田では 2 回以内)

\* 注意事項の変更はありません。

## (2) ツルギフロアブル

## (1) 適用内容の変更

- ① 適用雑草名の追加: 移植水稻/シズイ
- ② 使用方法の追加: 移植水稻/水口施用
- ③ 使用方法の変更: 移植水稻/「原液湛水散布、水口施用又は無人ヘリコプターによる滴下」  
⇒「原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下」
- ④ 作物名の追加: 直播水稻
- ⑤ 使用方法の追加: 直播水稻/無人航空機による滴下

## 【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ ミスガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ セリ、オモダカ、クログワイ、シズイ	移植直後～ルビエ 2.5 葉期 但し、移植後 30 日まで	500ml /10a	1回	原液湛水散布、水口施用又は 無人航空機による滴下
		移植時			田植同時散布機で施用
直播水稻	水田一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ミスガヤツリ、ウリカワ	稲 1 葉期～ルビエ 2.5 葉期 但し、収穫 90 日前まで			原液湛水散布又は 無人航空機による滴下

イフェカルバゾンを含む 農薬の総使用回数	イマズスルフロンを含む 農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

## (2) 注意事項の変更

## 【変更後】(変更箇所のみ)

・本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ルビエの 2.5 葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミスガヤツリ、ウリカワは 2 葉期まで、ヘラオモダカは 3 葉期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、シズイは草丈 3 cm までが本剤の散布適期である。

・本剤を無人航空機で滴下する場合は次の注意を守ること。

- ① 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
- ② 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
- ③ 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行うこと。
- ④ 隣接する圃場に水稻以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行わないこと。
- ⑤ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- ⑥ 薬液滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- ⑦ 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稻以外の作物への薬液散布には使用しないこと。

## 【追加】

・シズイは発生の期間が長く、遅い発生のもものでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。

・水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態(湛水深 3～5cm)に達した時に必ず水を止め田面水があふれないように注意すること。

・直播水稻に使用する場合は以下に注意すること。

- ① 稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさけること。
- ② 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。

2. 使用制限 平成 30 年 10 月 10 日付 (1 件)

(1)日農マイクロデナポン水和剤 85

登録第 5131 号

使用時期の変更:キャベツ/収穫 14 日前まで⇒**収穫 21 日前まで**

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	NAC を含む農薬の総使用回数
日本なし	アブラムシ類 ナシゲンバイ	1000～2000 倍	200～700ℓ /10a	収穫 60 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	クワコナカイガラムシ	1000～1500 倍					
	シクイムシ類 ナシハバチ	1200 倍					
	ナシチビガ	1000 倍					
みかん	ミカンガタマムシ	1700 倍	100～300ℓ /10a	収穫 21 日前 まで	4 回以内	散布	4 回以内
	コアオハナムグリ	1300～1700 倍					
	アブラムシ類 ハマキムシ類	1000 倍					
キャベツ	ヨウムシ アオムシ ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300ℓ /10a	収穫 21 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ばれいしよ	ヨウムシ オオニジュウヤホシテントウ ハスモンヨトウ	800～1000 倍		収穫 7 日前 まで			

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	NAC を含む農薬の総使用回数
りんご	摘果	1200 倍	200～700ℓ /10a	満開後 1～4 週間	2 回以内	散布	2 回以内

\* 注意事項の変更はありません。

以上